

ブラジルの投資環境について

2015年2月4日

<経済・財政の状況>

ブラジル経済は、鉱工業生産の前年比減少が続き、消費も減速傾向にあります。また、主要輸出品である鉄鉱石をはじめとする資源価格の下落などで、外部環境も向かい風となっています。2014年の経済成長率はほぼゼロ近辺にまで鈍化した模様であり、2015年も同様の状況が続くとの見方が市場では優勢です。

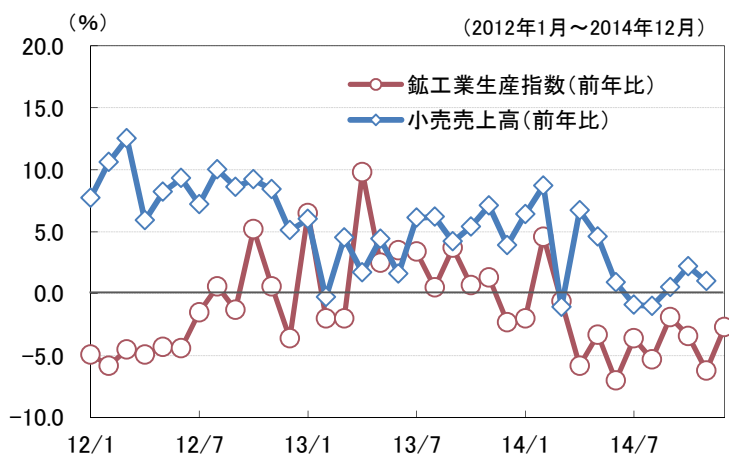
中央銀行は、インフレ対策のため利上げを継続しています。政策金利は、2013年4月から引き上げが開始され、今年1月には12.25%となっています。インフレは2014年12月にはようやく目標レンジ(4.5%±2.0%)内に鈍化していますが、今後は再び加速する公算です。

財政面では、2014年10月に再選を果たしたルセフ大統領が、2014年の財政目標を実質的に放棄する代わりに、対GDP(国内総生産)比1.2%のプライマリーバランス(基礎的財政収支)の黒字という2015年の財政目標を堅持する方針を示しました。レビ財務大臣は、減税の取りやめや燃料税の導入などによる歳入増加と、年金給付制限の厳格化などによる歳出削減のパッケージを発表し、財政再建に優先的に取り組む姿勢を示しています。

<為替相場>

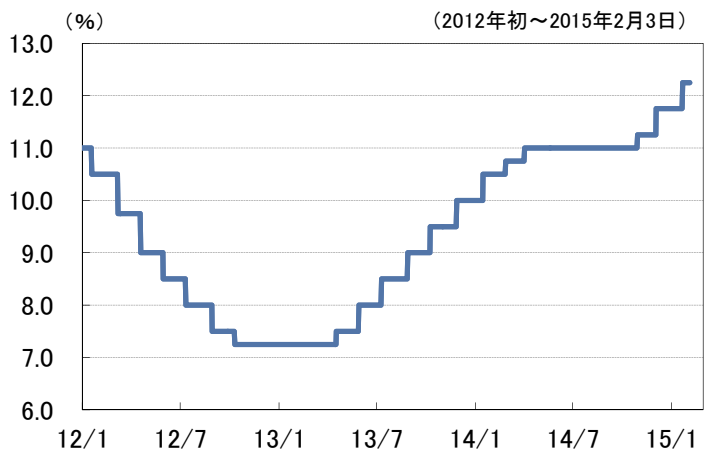
市場では、新政権の発足前から財政再建への取り組みが注目されていました。具体策の発表が遅れたことでレアル安が進行しましたが、財政再建の具体策が徐々に明らかになるに連れて反発しました。しかしながら、財政緊縮の影響で景気見通しが悪化したことや、国営石油会社が汚職疑惑の影響で格下げされたこと、また2014年のプライマリーバランスが1997年以来の赤字となったことなどを受けて再び下落しました。

鉱工業生産指数と小売売上高の推移



※小売売上高は2014年11月まで
(出所)ブルームバーグ

ブラジルの政策金利の推移



(出所)ブルームバーグ

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

ブラジル・レアルの推移



<今後の見通し>

現在のブラジル経済の低迷や財政の悪化は、過去の様々な誤った政策の影響が大きいと考えられます。今後は財政再建の実績を作り上げ、投資家の信頼を取り戻すことが重要となりそうです。第二次ルセフ政権は、従来のばらまき型政策を見直し、財政再建とインフレ抑制のための政策を次々と打ち出しています。このような政策は、企業や市場からの信認を回復し、投資を促し、中長期的にはブラジルの安定した経済成長を支えることが期待されます。一方で、緊縮財政政策は短期的には景気を下押しするため、どの程度の悪影響が景気に及ぶかを注意深く見極める必要があるとみています。このため、当面の間、市場は変動幅の大きい展開が続く可能性が高いとみられますが、徐々にブラジルの中長期的な成長力を反映する展開へと移っていくとみています。

以上